

【各プロジェクトゼミ輪読文献一覧】

曜日・ 時限	担当教員名	著者名	書籍名	出版社名	プロジェクト タイトル	分野	専攻科目 I
木 曜 2 限	石月 義訓	藤原辰史著	『トラクターの世界史:人類の歴史 を変えた「鉄の馬」たち』 http://www.chuko.co.jp/shinsho/2017/09/102451.html	中公新書	諸外国の農業統計資料 の解析	食 と 農	国際農業経済論
	大江 徹男	安部司著	『食品の裏側:みんな大好きな食品 添加物』 https://str.toyokeizai.net/books/9784492222669/	東洋経済 新報社	国産と海外産の安全性 の比較研究		フードシステム論
	片野 洋平	ハンス・ロスリング、オー ラ・ロスリング、アンナ・ ロスリング・ロンランド 著・上杉周作、関美和 訳	『FACTFULNESS:10の思い込 みを乗り越え、データを基に世界を 正しく見る習慣』 https://www.nikkeibp.co.jp/atclpubmkt/book/19/P89600/	NTT 出版	事実に基づいて食・農・ 環境問題を見る目を養 う。		食料農業社会学
	中嶋 晋作	リー・コールドウェル著・ 武田玲子訳	『価格の心理学:なぜ、カフェのコ ーヒーは「高い」と思わないのか?』 https://www.nijg.co.jp/book/9784534050427/	日本実業 出版社	食品マーケティングの定 量分析		食ビジネス論
	小田切 徳美	小田切徳美著	『農山村は消滅しない』 https://www.iwanami.co.jp/book/b226306.html	岩波書店	各地の「ふるさと納税」プ ロジェクトの提案	環 境 と 資 源	地域ガバナンス論
	暁 剛	芹澤健介著	『コンビニ外国人』 https://www.shinchosha.co.jp/book/610767/	新潮社	留学生へのアンケート調 査による外国人労働者 の分析		途上国の食と環境
	藤栄 剛	中室牧子・津川友介著	『原因と結果の経済学:データから 真実を見抜く思考法』 https://www.diamond.co.jp/book/9784478039472.html	ダイヤモンド 社	食・農・環境の統計から 因果関係を探る		資源経済論

金曜2限	池上 彰英	アビジット・V・バナジ ー、 エステル・デュフロ 著・山形浩生訳	『貧乏人の経済学:もういちど貧困 問題を根っこから考える』 https://www.msz.co.jp/book/ /detail/07651.html	みすず書 房	FAOSTAT を使った「飢 餓と飽食」の分析	食と 農	国際開発論
	作山 巧	三田村 薔子 著	『「ポッキー」はなぜフランス人に愛 されるのか?:海外で成功するロー カライズ・マーケティングの秘訣』 https://www.njg.co.jp/book/ 9784534052728/	日本実業 出版社	日本食の海外展開を提 言する		食料貿易論
	竹本 田持	鈴木 透 著	『食の実験場アメリカ:ファーストフ ード帝国のゆくえ』 http://www.chuko.co.jp/shi nsho/2019/04/102540.html	中公新書	食の変化を基に農業や 地域社会について考え る		農業マネジメント論
	橋口 卓也	中村靖彦 著	『日本の食糧が危ない』 https://www.iwanami.co.jp/ book/b226096.html	岩波新書	「食料・農業・地域」に関 する統計データアクセス と整理・分析		農業政策論
	市田 知子	中根千枝 著	『タテ社会と現代日本』 https://gendai.ismedia.jp/lis t/books/gendai- shinsho/9784062884303	講談社現 代新書	日本社会の特質につい て再考する	環 境 と 資 源	環境社会学
	岡 通太郎	マッテオ・モッテル リーニ 著・泉典子 訳	『経済は感情で動く:はじめての行 動経済学』 https://www.kinokuniya.co.i p/f/dsg-01-9784314010474	紀伊國屋 書店	エシカル・マーケティン グの事例研究		共生社会論
	本所 靖博	高橋博之 著	『都市と地方をかきまぜる:食 べる通信の奇跡』 https://www.kobunsha.com /shelf/book/isbn/97843340 39363	光文社新 書	生産者と消費者の持続 可能な関係づくり		環境資源会計論

【文献の内容紹介－木曜 2 限】

『トラクターの世界史:人類の歴史を変えた「鉄の馬」たち』(担当:石月)

1892年にアメリカで発明されたトラクターは、直接土を耕す苦役から人類を解放し、穀物の大量生産を可能にした。文明のシンボルともなったトラクターは、アメリカでは量産によって、ソ連・ナチ・ドイツ、中国では国策によって広まり、世界中に普及する。だが、化学肥料の使用、土地の圧縮、多額のローンなど新たな問題を生み出す。本書は、一つの農業用の"機械"が、人類に何をもたらしたのか、日本での特異な発展にも触れながら、農民、国家、社会を通して描く。

『食品の裏側:みんな大好きな食品添加物』(担当:大江)

廃棄寸前のクズ肉も 30 種類の「白い粉」でミートボールに甦る。コーヒーフレッシュの中身は水と油と「添加物」だけ。「殺菌剤」のプールで何度も消毒されるパックサラダ。虫をつぶして染めるハムや健康飲料……。食品添加物の世界には、消費者には見えない、知らされていない「影」の部分がたくさんあります。「食品製造の舞台裏」は、普通の消費者には知りようがありません。どんな添加物がどの食品にどれほど使われているか、想像することさえできないのが現状です。本書は、そんな「食品の裏側」を、食品添加物の元トップセールスマンが明した日本ではじめての本です。いま自分の口に入る食品はどうできているのか。添加物の「毒性よりも怖いもの」とは何か。安さ、便利さの代わりに、私たちは何を失っているのか。

本書は、それらを考える最良の 1 冊になっています。

『FACTFULNESS: 10 の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』(担当:片野)

ここ数十年間、わたしは何千もの人々に、貧困、人口、教育、エネルギーなど世界にまつわる数多くの質問をしてきた医学生、大学教授、科学者、企業の役員、ジャーナリスト、政治家—ほとんどみんなが間違えた。みんなが同じ勘違いをしている。本書は、事実に基づく世界の見方を教え、とんでもない勘違いを観察し、学んだことをまとめた一冊だ。

『価格の心理学:なぜ、カフェのコーヒーは「高い」と思わないのか?』(担当:中嶋)

「購買心理学」と「行動経済学」の観点からアプローチする、新しい価格戦略の教科書。お客は売り場で何をどう認識して購買を決定するのか、その決定はいかに「不合理」か。顧客心理を読み解き、「買い」へと誘導する価格設定の技法。

『農山村は消滅しない』(担当:小田切)

増田レポートによるショックが地方を覆っている。地方はこのままいけば、消滅するのか? 否。どこよりも先に過疎化、超高齢化と切実に向き合ってきた農山村。311 以降、社会のあり方を問い田園に向かう若者の動きとも合流し、この難問を突破しつつある。多くの事例を、現場をとことん歩いて回る研究者が丁寧に報告、レポートが意図した狙いを喝破する。

『コンビニ外国人』(担当:暁)

全国の手数コンビニで働く外国人店員はすでに四万人超。実にスタッフ二十人に一人の割合だ。ある者は東大に通いながら、ある者は八人で共同生活をしながら—彼らはなぜ来日し、何を夢見るのか? 「移民不可」にもかかわらず、世界第五位の「外国人労働者流入国」に日本がなったカラクリとは? 日本語学校の危険な闇とは? 丹念な取材で知られざる隣人たちの切ない現実と向き合った入魂のルポルタージュ。

『原因と結果の経済学:データから真実を見抜く思考法』(担当:藤栄)

メタボ健診を受けていれば長生きできる、テレビを見せる子どもの学力が下がる、偏差値の高い大学へ行けば収入が上がる。そう言われて、否定する人はほとんどいないだろう。しかし、経済学の有力な研究はこれらをすべて否定している。本書で紹介する「因果関係を証明する方法」がわかれば、「根拠のない通説」にだまされなくなる。

【文献の内容紹介一金曜2限】

『貧乏人の経済学:もういちど貧困問題を根っこから考える』(担当:池上)

貧困研究は、ここまで進んだ。単純な図式(市場 vs 政府)を越えて、現場での精緻な実証実験が明かす解決策。

『「ポッキー」はなぜフランス人に愛されるのか?:海外で成功するローカライズ・マーケティングの秘訣』(担当:作山)

独特の食感でアメリカ人に大人気「ハイチュウ」、狙うは五大陸制覇「じゃがビー」、「柿の種」はこんな国で愛されている!!国内では廃番→海外で復活したお菓子たち、「カラムーチョ」「ベビースターラーメン」...日本のお菓子が切り開く“海外戦略”の道!

『食の実験場アメリカファーストフード帝国のゆくえー』(担当:竹本)

先住インディアン、黒人奴隷、各国の移民らの食文化が融合したアメリカの食。そこからバーベキュー、フライドチキン、ハンバーガーなど独自の食文化が形成されたが、画一化されたファーストフードや肥満という問題をも引き起こした。そしていまアメリカではスシロールに代表される、ヘルシーとエスニックを掛け合わせた潮流が生まれ、食を基点に農業や地域社会の姿も変えようとしている。食から読む移民大国の歴史と現在。

『日本の食糧が危ない』(担当:橋口)

日本経済の見通しが不透明な中で、中国を始めとする新興国の需要増等で穀物価格が高騰し、食料不足が目前に迫っている。輸入大国日本はこのままでいいのか?農政の目玉政策といわれる「戸別所得補償制度」や自給率向上のための飼料用コメの開発を検証しながら、TPP への対処など真の食料安保のために必要な政策を提言する。

『タテ社会と現代日本』(担当:市田)

著者は社会人類学者であり、自身のベストセラー『タテ社会の人間関係』(1967年)を基点としながら、現代日本社会の問題に切り込んでいる。本書は2019年に刊行された。長時間労働をもたらす小集団の封鎖性、非正規・正規雇用問題などの問題は、「序列意識」「ウチとソト」など、日本社会独自とされる「タテ社会」の構造とどのように関わるのか。現代社会と向き合うための「タテ社会」入門書。(講談社現代新書 HP の紹介記事より一部改変)

『経済は感情で動く:はじめての行動経済学』(担当:岡)

経済学って、こんなに人間的で、面白い学問だったのか。最新の行動経済学は、経済の主体であるところの人間の行動、その判断と選択に心理学の視点から光を当てる。そこに見えてきたのは、合理性とは似つかない「人間的で、あまりに人間的な」一面。クイズ形式で楽しく読み進むうちに、「目からうろこ」、ビジネスでのヒントに溢れ、お金をめぐるあなたの常識を覆す。

『都市と地方をかきまぜる:食べる通信の奇跡』(担当:本所)

東北の農業や漁業の現場を取材したタブロイド紙と、野菜や魚などの生産物をセットで届ける新しいタイプのメディア「東北食べる通信」。その名物編集長が、「都市」と「地方」を切り口に、これからの農業・漁業、地域経済、消費のあり方、情報社会における生き方までを語り尽くすー。

上記記述資料の出所:アマゾン・ジャパンのホームページ等での書籍検索により商品の説明欄より引用して作成